

# 論

# 説

過大な自己負担を避ける「高額療養費」制度の改定案は二転、三転、ついに見送りに追い込まれた。

石破茂政権の少数与党の非力以上に、当事者への事情聴取を怠って負担限度額の大幅引き上げに走ったのが主因だろう。

「全国がん患者団体連合会」（全がん連）は、寝耳に水の引き上げ案に驚き、

## 宮武剛

## 高額療養費の迷走

# 私たちと会話してください

1月、急ぎよアンケートを8万円余で乳がん治療を続

募った。わずか3日間で3

623人の声が殺到した。

改めて若い世代に絞り、

手取りの半分が毎月飛び、

幾つか紹介する（同会ホー

ムページで閲覧可能、趣旨

を生かして簡略化）。

「（治療が難しい）スキ

ルス胃がん患者です。小さ

な子を遺して死ねません。

療養費に助けられたか。私

の場合月6万円上限だった

が、それでも大変でした」

「お金を払えないなら生き

るな、と言われていたよう

に感じました」

「社会人3年目、手取り

月20万円ほど、上限負担の

ん以外の患者も多い。

「入院は長期になる場合

がほとんど。休職になり給

料も下がる」「就労ができ

が忘れられている」

「私たちが世代の実情を聴

いてください。見てくださ

い。『会話』をしてくださ

い。その上で、面と向かつ

て政治家の皆さま方が本心

で値上げをすると伝わるな

らば、私たちも納得します」

現状を調べ、話し合っ

て。医療の課題は山積みす

る。医薬品だけでも重複・

過剰投与が目立つ。効果に

疑義を伴う高額薬もある。

湿布や保湿剤まで保険対象

の過剰適用も止まない。

巨費を保険料と公費でど

うら分担するか。自己負担分

への応能負担の適用はどこ

まで許されるか。それもこ

れもアンケートに耳を傾け

ながら医療と医療保険のあ

るべき全体像を論議してほ

しい。（本紙論説委員）



みやたけ・ごう 毎日新聞論説副委員長から埼玉県立大、目白大大学院の教授などを経て現職